



尾張名所図会

一の鳥居（熱田神宮）

名古屋市熱田区新尾頭二丁目

寒中の夜参りでにぎわう大鳥居



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会に描かれている江戸時代の熱田神宮の一の鳥居付近を寒中の夜、大宮を参拝する人たちの様子です。

鳥居の近くには、三日月が描かれ、うどん屋やお菓子屋なども営業し、かごを利用する人、薄着で走っている人など多くの人が描かれてにぎやかな様子がうかがえます。

尾張名所図会が書かれた頃には、熱田神宮の周りに八つの大きな鳥居があり、「八疆の鳥居」と言われていました。その中でも尾頭町にあった一の鳥居は、高さ三丈五尺（11.6m）柱廻り一丈（3.3m）の檜造りで丹塗なりと言われ、非常に大きなものでした。一の鳥居は、美濃街道にあり、名古屋城下から南へ熱田に向かう道中に、さらに南の熱田神宮近く、断夫山古墳の南の幡綾町（現在の旗屋町）に二の鳥居がありました。現在は、それぞれの鳥居の跡に「熱田神宮第一神門址」、「熱田神宮第二神門址」と掘られた石柱が国道19号の歩道にあります。しかし、石柱の文字は、車道側に書かれており歩道を通行する人は、見落としてしまいがちです。石碑の位置から一の鳥居があったところは、道路の幅員は大きく変わっていますが江戸のころから現在も熱田と名古屋を結ぶ幹線の道路として利用されています。



「熱田神宮第一神門址」の石碑



国道19号歩道の石碑

◆関連資料 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。
 「尾張名所図会前編三」岡田啓 / 著愛知県郷土資料刊行会 (Sc-ア)
 「新修名古屋史第3巻」新修名古屋史編纂委員会 (Sc-ナ)
 「史跡あつた」熱田研究よもぎの会 / 編 (Sc-ア)
 「美濃路—熱田宿から樽井宿まで—」日下英之 / 著 (Sc-ヒ)